

ホタルを見よう「上天下町のこぼだん」

とんびはこんなふうに見ています。(※1)

昨年行われた「清水東のまちづくりワークショップ」で上天下町のとある谷は、ホタル、シジミ、カワセミ(※2)などがたくさん生息し自然豊かだ、との情報がありました。地元ではその谷を「こぼだん(※3)」と呼んでいます。

ホタルを楽しめる季節となりました。道路から静かに観賞されては如何でしょうか。

〈お約束〉

※お子様は大人と一緒にだけけましよう。
※谷の中の田や道路には入らないようによましよう。

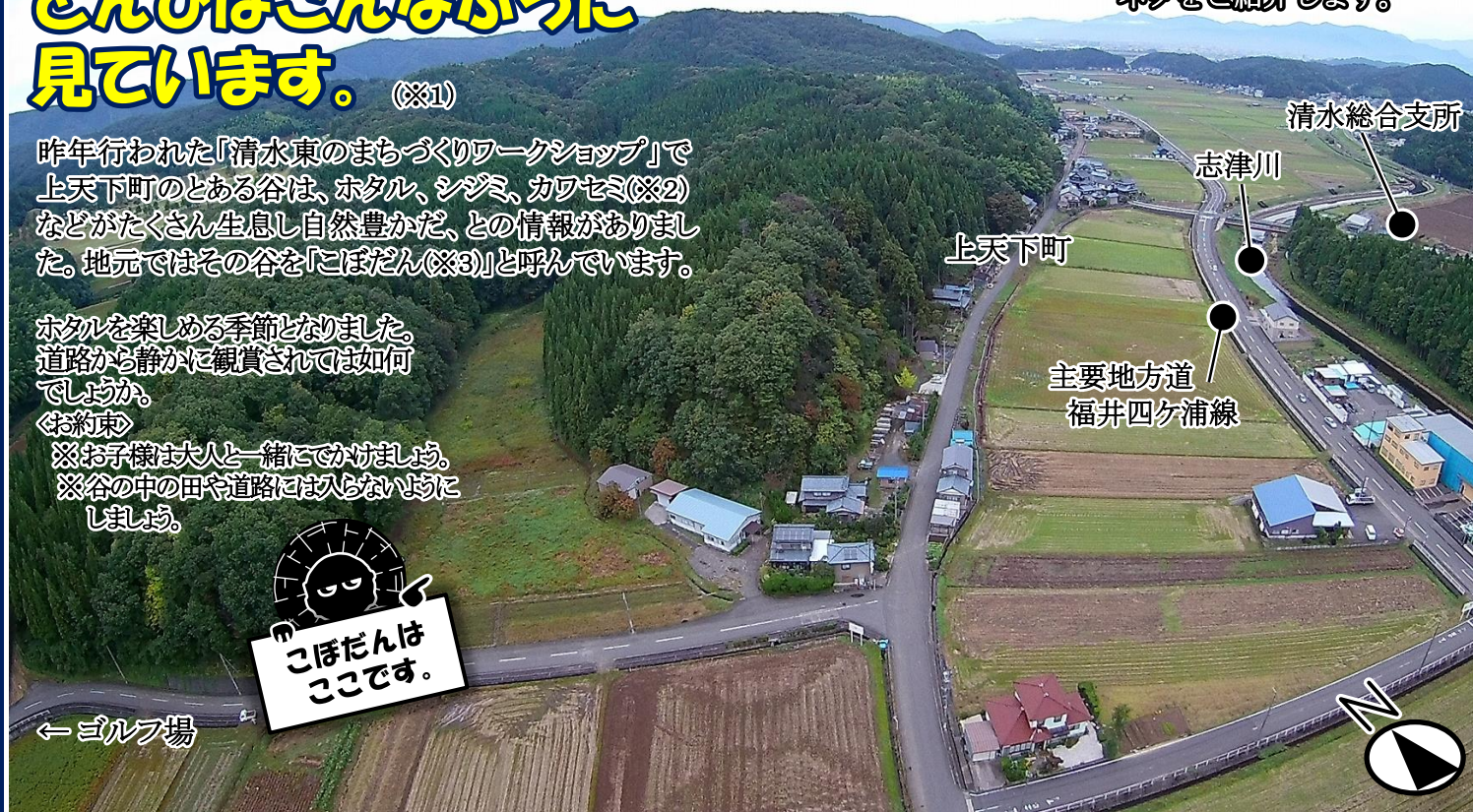


←ゴルフ場



A SPECIAL EDITION
by Teamふらひがし

上天下町のおもしろいネタをご紹介します。



(※1) 大森町と上天下町境より北北東に向かって小型無人機で撮影しています。
(※2) 水辺に生息する鮮やかな水色の体と長いくちばしが特徴の小鳥です。
(※3) 小字名は「口小保谷」「奥小保谷」です。便宜上「こぼだん」と呼んでいるのではないのでしょうか。

・ Teamふらひがしとは、清水東公民館の広報部を中心とした有志の集まりです。日々、地区内のおもしろいネタを探しつつ、ぶらついていきます。

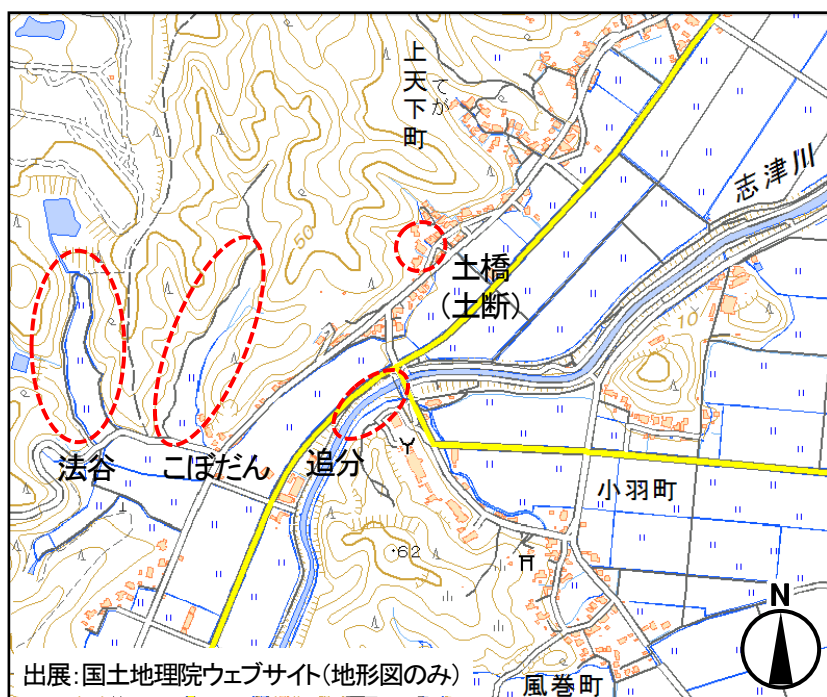
上天下町のおいたち

大むかしは、西谷村といって、大森出村(大森町)境から、北へ入る法谷(※1)の西北にあったといわれ、それが、千年以上も前、南向きで谷の奥から清水がよく出ている、南向きの「谷向い垣内」(※2)に移り住んで上天下村が出来たといえます。

その後、小羽(小羽町)へ行く追分(※3)の手前のせまい谷に「土断(どばし)」(※4)という出村が出来、今の上天下のもとが出来ました。大雨の時は、志津川の水が田んぼに流れこんで屋敷も田んぼも水浸しになる事がたびたびあったので、家は谷の奥の高い所へ建てて住んでいました。

記事引用:清水町のむかしばなし

- (※1) 「法谷」は主に大森町地係です。
- (※2) 「谷向い垣内」のはっきりとした場所はよくわかりません。
- (※3) 小字名で「追分」があります。今の小羽橋付近です。
- (※4) 小字名で「土橋」があります。「土断(どばし)」とはこの辺りと思われます。



出展: 国土地理院ウェブサイト(地形図のみ)

「こぼだん」にまつわるむかしばなし

乙女谷（おとめだん）とテング

むかしむかし、上天下の百姓の家の、おっつあとおっかあが、法谷（ほうたん。小字名）の山へ「木の葉」を拾いに出かけたんにやっつての。ほのとき、家ん中にいた五つの女の子がおっかあのと追いをして、

「おっかあ、おっかあ、いってもたらいやーん、ててってー、おっかあー。」と、泣き泣きついてくるんにやっつての。ほうやっつてついて来て、とうとう山の四つ辻まできてしもたんにやと。ほこからは山がけわしなつて、ガサ原になるんでなおこと、子どもはついてこれんのか。

「早よう帰らなあかんのやっつて。おとろしいワワメ（おばけ）がててつてしまふんやぞ。おまえはえれえ子やぞー、早よう帰れやナア。」と、何べんも言いきかせたんにやっつて。

しばらくすると泣きやんだんで、おっつあとおっかあは帰つたもんやと、安心して、四つ辻から小法谷（こぼだん。小字名）の方の山へたくもんしいに行つたんや。おいていかれた女の子は、泣きじゃくつて声がかすれて、いけーい声でんようになつてもたんやっつての。

おっつあとおっかあは、小法谷でこまざらえ（竹のクマ手）で、スン葉やらマツ葉をぎょうさんさらえて、たくもんの束をようけこつせたんにやっつて。

晩げしまになつたんで、たくもんをかづいてヒヨッコラ、ヒヨッコラ家へ帰つてきたんやと。ほいたら、とうに帰つてゐるはずの女の子がえんのか。

「こりゃ大ごつちゃ、うちの子がえんのか、どうしようこうしよう。」と、青うなつて山へさがしに出かけたんにやと。だんだんあたりは暗うなるし、女の子はみつからんし、おっつあとおっかあはものごうなつてしもうたんや。

ほれで、村のもんも出てきて、「ほれは、きつとオテングさまにててかれたんじゃ」というて、太鼓をたたきながら、

「乙女をかやせやー。乙女をかやせやー。」

と、あつちの山やらこつちの山を一晩じゅうさがいて歩いたが、やっぱし見つからなんだんやっつて。

ほいたら三日目の朝ま、小法谷近くのスギの切り株んとこに、女の子がチョココンとすわつてゐるのを、村のもんが見つけたんやと。

「ほりゃよかった、よかった。オテングさんにててかれて、おとろしかつたやろな。ほやけど、おめえ二日も三日も、何を食べていたんやいの。」

と、聞いたら、女の子がだまつてほところから、ウサギのくそをポロポロ出して見せたんやっつてのう。

それから、家へぶしてかえつて、スイロ（お風呂）に入れてうつくそう洗うてやり、着物もスカーンと着かえさせてから、ごはんをこつぽし食べさせてねさしたんやっつて。

その晩げのことや。誰やら外でユサユサ家をいさぶるもんがいるんやっつて。おっかあは、オテングさまがまた女の子を連れに來たんかもしれんと、夜さりじゅうきつーう抱いて、ちちこまつてねてたんやっつて。

ほんなことがあつてからは、女の子がすわつていた谷を「乙女谷」というようになつたんにやと。

記事・挿絵の引用：清水町のむかしばなし

※ 昭和 61 年 8 月、旧清水町が発行した「清水町のむかしばなし」の中に収録されている、「民話」をとりまとめました。

※ 概ね原本のとおりのため、難解な福井弁があります。どういう意味なのか、みんなで話し合うといいですね。

